

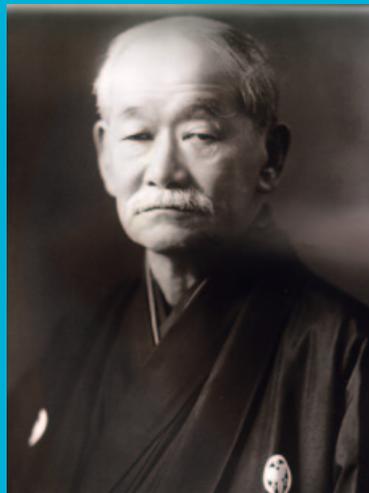


University  
of Tsukuba  
**2015**

# 筑波大学 体育専門学群

School of Health & Physical Education





**University  
of Tsukuba  
2015**

## School of Health & Physical Education

- 1878 (明治11) 年10月 体操伝習所開設
- 1885 (明治18) 年12月 東京師範学校に附属体操伝習所
- 1886 (明治19) 年04月 東京師範学校は高等師範学校と改称  
附属体操伝習所を廃し、体操専修科設置
- 1902 (明治35) 年03月 高等師範学校を東京高等師範学校と改称
- 1915 (大正02) 年04月 東京高等師範学校に体育科設置
- 1924 (大正13) 年10月 渋谷区代々木 (幡ヶ谷) に体育研究所創立
- 1941 (昭和16) 年03月 東京高等体育学校設置 (幡ヶ谷)
- 1944 (昭和19) 年04月 東京高等体育学校を東京体育専門学校と改称
- 1949 (昭和24) 年05月 東京教育大学開学 (大塚) 体育学部設置 (幡ヶ谷)
- 1960 (昭和35) 年04月 体育学部附属スポーツ研究所設置
- 1964 (昭和39) 年03月 東京教育大学大学院体育学研究科 (修士課程) 設置
- 1967 (昭和42) 年04月 武道学科開設
- 1973 (昭和48) 年10月 筑波大学開学、体育専門学群設置
- 1976 (昭和51) 年04月 筑波大学体育研究科 (修士課程) 設置  
体育科学研究科 (博士課程) 設置
- 1977 (昭和52) 年03月 東京教育大学閉学
- 1989 (平成元) 年04月 筑波大学大学院修士課程体育研究科  
(コーチ学専攻、健康教育学専攻) 昼夜開講制実施
- 1990 (平成02) 年04月 筑波大学大学院修士課程体育研究科  
(体育方法学専攻) 昼夜開講制実施
- 1997 (平成09) 年04月 筑波大学大学院修士課程スポーツ健康科学専攻開設
- 2001 (平成13) 年04月 筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科設置
- 2003 (平成15) 年04月 筑波大学大学院修士課程スポーツ健康システム・  
マネジメント専攻開設
- 2004 (平成16) 年04月 国立大学法人に移行
- 2006 (平成18) 年04月 筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科後期3年  
課程コーチング学専攻開設



## アウトライン

筑波大学体育専門学群では、体育・スポーツ・健康に関する最新の科学的研究成果を活かしながら、指導者の養成を目指しています。指導者には優れた運動技能と幅広い運動経験を持ち、かつ、保健体育に関する総合的知識を備えた、指導力と活力に富み豊かな人間性が求められます。そのため、本学群の教育課程では、学生が各種運動の実技と方法論を基礎にしなが、約40ある卒業研究領域の中から特徴的に配列された教育課程を選ぶことができるようになっています。更には大学院との関連も考慮し、その運用には格別の配慮が払われています。

体育専門学群生は、各種運動施設及び実験実習室に恵まれ、整備された環境のもとで学習効果を上げています。各種日別に完備された運動施設は言うまでもなく、運動部活動にも十分活用されています。この運動部の活動は、単に運動技能を高めるだけでなく、社会に生きる人間としての豊かな経験を得る上でも重要な意義を持っています。そして快適で秩序ある学園生活を享受する場ともなっています。

体育専門学群は、昭和52年度から卒業生を世に送り出しています。本学群の卒業生は、中学校・高等学校・大学などの保健体育の教員はもとより、社会体育や地域保健の指導者、スポーツのコーチやトレーナー、レクリエーションのリーダー、報道・出版関係者として活躍しています。さらには企業スポーツ、リハビリテーションの指導者など幅広い分野でも活躍しています。



## 学群長挨拶

筑波大学体育専門学群は、1878(明治11)年に設置された官立の体操伝習所に始まり、140年近くの歴史を有しています。近代日本の教育現場にふさわしい体操の開発と指導者の養成が体操伝習所に課せられた使命でした。体操伝習所は高等師範学校(後に東京高等師範学校と校名変更)に引き継がれると、嘉納治五郎校長のもとで体育科が設置され、教育的な視点とともに、武道やスポーツが取り入れられました。東京高等師範学校体育科(1915年～)は、東京教育大学体育学部(1948年～)、筑波大学体育専門学群(1973年～)と受け継がれ、今日に至っています。

学校教育のみならず、スポーツ界においても、私たちの先人が道を切り開いてきました。日本人が初めてオリンピック競技会に出場したのは1912年。嘉納校長がアジア人初のIOC委員に就任し、東京高師と東京帝国大学の学生2名を連れてストックホルム大会に参加したのです。箱根駅伝を創設したのも東京高師関係者、サッカーの初の国際試合も東京高師によるものです。

嘉納先生は、高等師範学校、東京高等師範学校の校長を通算23年半も務め、教育改革の足跡も残されました。また、柔道を世界に広めながら、「精力善用・自他共栄」の理念を確立しました。「精力善用」は、各自の高めた力や能力を最も有効に活用することを説いたもので、「自他共栄」は、他者や社会に貢献する生き方の重要性を意味しています。今後の行動規範を示す古くて新しい概念だと思います。

2015年には東京高師体育科創設100周年の節目を迎えます。日本における学校体育とスポーツ科学の発展は、東京高師に体育科が設置されて以降のことです。今日までの間、体育・スポーツを取り巻く環境は大きく変わりました。力や技を競うことの素晴らしさ、生涯スポーツから得られる健康や楽しさに加えて、世代を越えてのコミュニケーション、復興支援にみられる社会の活性化、途上国における開発支援など、体育・スポーツの新たな価値が認識されるようになりました。スポーツの基本理念を定めたスポーツ基本法も2011年8月に施行され、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催も決まり、まさに現代は、体育・スポーツの時代であるといっても過言ではありません。

このようなことを背景としつつ、筑波大学体育専門学群では、研究成果に裏打ちされた理論と実践に基づき、経験豊かな教職員が一丸となって、「知・徳・体」を兼ね備えた人材の輩出に取り組んでいます。皆さんも筑波大学体育専門学群に加わり、切磋琢磨しながら、日本のみならず、世界で活躍できる体育・スポーツ界のリーダーになっていただきたいと思います。伝統とは、先輩たちが築いてきたものを守るだけでなく、社会の発展に寄与する新たなものを創造することによって維持されます。そのようなことに共に挑戦したいと思います。私たちは皆さんの活躍を応援します。

体育専門学群長 真田 久



## 教育・研究の組織

昭和48年、新構想大学としてスタートした筑波大学では、他の大学とは異なり、教育組織と研究組織とが独立しており、双方が独自性を保ちつつも互いに連携することによって大学の使命である教育と研究の活性化を図ろうとしています。

学生は、学群・学類と呼ばれる教育組織に所属します。体育の場合、目的を明確にした専門的な教育を早くから行う必要があるため、学類組織をもたない単一の「専門学群」となっています。体育専門学群生は、3年進級時に体育学の3分野（下記参照）に対応した39の研究領域（p.10卒業研究領域一覧）の中からいずれかを卒業研究領域として選択し、卒業研究をはじめとして、より専門的な学習が進められるようになっています。

また、大学院も平成20年から区分制博士課程に改組・再編され、さらに充実されました。体育に関する分野としては、体育学専攻（博士前期課程）、教科教育専攻保健体育教育コース（修士課程）、スポーツ健康システム・マネジメント専攻（修士課程）、体育科学専攻（博士後期課程）、学校教育学専攻（博士後期課程）、ヒューマン・ケア科学専攻（3年制博士課程）、スポーツ医学専攻（3年制博士課程）、コーチング専攻（3年制博士課程）の8専攻が設置され、学群卒業後も各自の関心と能力に合わせて学習と研究をさらに深めることができるようになっています。

＜体育学の3分野＞	
体育・スポーツ学	体育・スポーツを主として人文・社会科学的方法（哲学、歴史学、社会学、経営学、心理学など）を用いて教育・研究する分野
コーチング学	スポーツ・運動の種目特性や運動方法および指導方法について教育・研究する分野
健康体力学	スポーツ・運動・健康について、主として自然科学的方法（生理学・解剖学・力学・栄養学・医学など）を用いて教育・研究する分野

## 教育課程

体育専門学群においては、様々な体育・スポーツの専門家養成を目指しています。カリキュラムはそのような専門家になるために学習すべき内容を体系化したものです。常に時代の要請に応じ、時代を先取りするカリキュラムづくりにつとめてきました。平成25年度から新しい教育課程に再編されました。

体育専門学群の学生が履修する教育課程は、筑波大学の全学生に共通に開設される一般教養的科目「基礎科目」と体育専門学群の教育目的に即して編成する「専門科目」「専門基礎科目」に大別されます。

標準的な履修イメージ

1年	2年	3年	4年
基礎科目		専門科目	
専門基礎科目		卒業研究	
教職科目			

専門基礎科目は、体育・スポーツ科学を専門的に学ぶ全ての学生に共通に必要な最低限の基礎的知識・技術を習得する科目群であり、主として1～2年次で履修します。専門科目は、専門基礎科目の学習を基礎としながら、体育・スポーツの専門性をさらに向上させることを目的とした科目群であり、3年次以降に履修します。専門科目は、「キャリア支援科目」「分野別専門科目」「卒業研究領域科目」「実技系科目」の4つの科目群に分けて開設されています。





## 授業科目の構成

体育専門学群では、以下に示す豊富な授業科目の中から合計124単位以上を取得することが卒業要件になっています。保健体育科の教員免許状はもちろん、各種体育・スポーツ指導者の資格取得にも対応したカリキュラムになっています。

### 基礎科目

一般教養的科目

共通科目	総合科目Ⅰ 総合科目Ⅱ 第1外国語 情報 国語	新入生に対するフレッシュマン・セミナー及び初年次導入科目 広い視野から学問のあり方や人間の生き方を考える態度・習慣を身につけるための科目。科目群A(物質、数理、生命、環境に関わる科目)、科目群B(精神、文化、社会、歴史に関する科目)、科目群C(学際的科目)で構成される。 外国語の実用的言語技能を養うことを目的とする科目(体育専門学群では英語を指定) インターネット社会におけるルール・モラル・スキル・知識を身につける科目 自己の意志を適確に表現し伝達する日本運用能力を養う科目
関連科目	「他学群の開設科目」「教職に関する科目」「博物館に関する科目」が選択できます。	

### 専門基礎科目

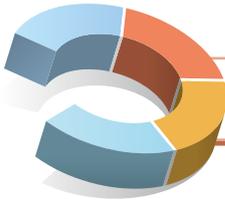
専門科目の履修にあたって基礎となる科目

体育・スポーツ学分野	体育哲学、体育・スポーツ史、武道学、スポーツ社会学、体育・スポーツ経営学、スポーツ政策学、体育・スポーツ心理学
コーチング学分野	運動学、一般コーチング学、一般トレーニング学、個別コーチング学、個別トレーニング学
健康体力学分野	解剖学、生理学、運動生理学、運動生化学、運動栄養学、体力学、スポーツバイオメカニクス、健康増進学、体育測定評価学、スポーツ医学、衛生・公衆衛生学、健康教育学、学校保健学
実技理論・実習	各種運動群から8種目以上を選択、臨海実習、テーピング・マッサージ

### 専門科目

興味関心・能力適性に応じて選択し、重点的に専門性を高めるための科目

キャリア支援科目	体育・スポーツの職業領域で活用される実践的な知識・技術を修得する科目 保健体育教師論、体育授業の観察法、オリンピック教育、体育のカリキュラムマネジメント、アダプトスポーツ教育、スポーツメディア論、スポーツ法学、スポーツにおける情報戦略、サクセスエイジング論、指導者のための体力測定法、健康づくり政策論、体育指導のバイオメカニクス、スポーツ傷害の予防とリハビリテーション、スポーツキャリア形成、キャリア形成インターンシップなど
分野別専門科目	体育学を構成する各個別専門諸学の専門知識をさらに専門的・発展的に学習する科目 スポーツ倫理学、世界の体育・スポーツ史、稽古論、現代スポーツ論、メンタルトレーニングの原理と方法、スポーツ健康心理学、スポーツと企業、スポーツ技術論、スポーツ戦術論、身体表現論、動きの解剖学、パフォーマンスと体力、スポーツ衛生学、アンチ・ドーピング、ヘルスカウンセリングの理論と技法、精神保健学など
卒業研究領域科目	選択した研究領域の最新の知見や研究方法を習得するための演習・実習型科目 卒業研究領域ごとに開設された演習・実習、専門語学、卒業研究
実技系科目	各自の専門とする運動種目の実技能力及び指導力のレベルアップを目的とする科目 種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ



# 大学院 人間総合科学研究科

## 体育学専攻 (博士前期課程)

体育学専攻は、スポーツ文化と社会環境、体育・スポーツ・健康に関する教育、そして身体と運動のメカニズムについて、現場で生じた問題に対して、専門領域の洞察力と総合的な視野をもちリーダーシップを発揮しながら解決する高度専門職業人を養成します。また、基盤となる科学研究の深化に向け、研究者の基礎を身につけた人材を育成します。

本専攻は、5つのコースと39の研究領域を置いています。所属する学生は、いずれかのコースを選択して特定の範囲の高度職業人に要求される知識と技能を身につけ、同時にいずれかの研究領域に所属して修士論文を作成します。

### ●研究領域 …

- ・体育・スポーツ学分野：体育・スポーツ哲学、体育史・スポーツ人類学、スポーツ社会学、武道学、体育・スポーツ経営学、スポーツ政策学、スポーツ産業学、体育科教育学、アダプテッド体育・スポーツ学、体育心理学
- ・健康体力学分野：健康教育学、環境保健学、運動生理学、運動生化学、運動栄養学、体力学、健康増進学、体育測定評価学、内科系スポーツ医学、外科系スポーツ医学、スポーツバイオメカニクス、応用解剖学
- ・コーチング学分野：コーチング論、トレーニング学、スポーツ運動学、体操コーチング論、体操競技コーチング論、陸上競技コーチング論、水泳競技コーチング論、バレーボールコーチング論、バスケットボールコーチング論、ハンドボールコーチング論、サッカーコーチング論、ラグビーコーチング論、ラケットバットスポーツコーチング論、柔道コーチング論、剣道コーチング論、弓道コーチング論、野外運動論、舞踊論

●コース … 1. スポーツ文化・経営政策コース、2. 健康・スポーツ教育コース、3. ヘルスフィットネスコース、4. アスレティックコンディショニングコース、5. コーチングコース

## 体育科学専攻 (博士後期課程)

体育科学専攻は、人文、社会科学から自然科学にわたる諸科学を基盤として、人間の身体と運動及びスポーツ文化を物質的、生物的、社会的レベルにおいて研究する専門諸科学からなります。本専攻では、体育科学の専門分野について自立して研究活動を行うに必要な高度な研究能力及びその基盤となる豊かな学識を養うことを目的としています。

●研究領域 … 1体育・スポーツ文化系(体育・スポーツ哲学、スポーツ倫理学、体育・スポーツ史、スポーツ人類学、武道学、身体文化論) 2スポーツ経営・政策系(スポーツ社会学、体育社会学、体育・スポーツ経営学、スポーツ法学、スポーツ政策学、体育・スポーツ行政論) 3体育・スポーツ教育系(スポーツ教育学、アダプテッド・スポーツ論、体育・スポーツ心理学、スポーツカウンセリング論) 4運動生命科学系(運動生理学、運動生化学、運動栄養学) 5健康体力系(発育発達学、運動解剖学、健康増進学、体力学、体育測定評価学、スポーツ衛生学、健康教育学) 6運動・コーチング科学系(スポーツバイオメカニクス、トレーニング論、個人スポーツコーチング論、球技スポーツコーチング論)

## 教育学専攻 (博士前期課程)

教育学の幅広い高度な知識と技能を修得するとともに、教育学の理論と実践とを統合した新しいカリキュラムと教授法の下で、教育の本質と現実的課題を問い続ける研究姿勢と基本的な研究方法、時代の要請に応える実践力を身につけた教育学研究者の育成を目指しています。

●研究領域 … 1教育基礎学 2学校教育学 3共生教育学

## 学校教育学専攻 (博士後期課程)

今日の学校教育をめぐる問題の複雑化・深刻化に対処するとともに、教育学研究の現実的な問題にアプローチし、学校教育の具体的実践活動に積極的にかかわる高度な専門的能力を有する研究者の養成を目指しています。この目的を達成するため2分野10専門領域から構成され、学校教育を多面的・総合的に捉える授業科目を開設して学校教育学研究を先導する充実した指導体制をとっています。

●研究領域 … 1教育内容方法学 … カリキュラム、教育方法学、道徳教育学、教育工学 2教科教育学 … 社会科教育学、人文科教育学、数学教育学、理科教育学

## ヒューマン・ケア科学専攻 (3年制博士課程)

教育学、心理学、カウンセリング学、社会学、福祉学、保健学、看護学、医学など、従来個々に培われてきた人間援助に関する理論や実践を、関連領域が提携した人間援助に関わる統合的研究領域としてのヒューマン・ケア科学を目指します。本専攻では、人間援助の問題をホリスティックに捉えるための理論を構築し、それに基づく実践方法の開発を志向する優れた研究者、及び幅広い知識を持ち、これまで培われた技法を人間援助の諸問題に柔軟に適用できる研究者や高度専門職業人を育成します。

●研究領域 … 1共生教育学 2発達臨床心理学 3臨床心理学 4生活支援学 5高齢者ケアリング学 6健康社会学・ストレスマネジメント 7社会精神保健学 8福祉医療学 9保健医療政策学 10ヘルスサービスリサーチ

## スポーツ医学専攻 (3年制博士課程)

スポーツ医学およびスポーツ科学に関する諸科学を基盤として、既存の分野では包含できない広範囲なカリキュラムを用意し、スポーツ選手の健康管理やコンディショニング、スポーツ障害の予防・治療・リハビリテーション、さらに生活習慣病等の予防と運動療法や運動を通じた小児から高齢者までの健康増進に関し、自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力およびその基盤となる豊かな学識を養います。さらに、関連した職域において将来必要とされる高度な資格の取得、および職域における指導者として不可欠な能力の開発を図ることにより、高度専門職業人を養成します。スポーツ医学に関連する教育・研究の実効性を高めるために、関連分野を有機的に融合・統合した4分野より構成されています。

●研究領域 … 1スポーツ医学基礎論 2生涯スポーツ医学 3競技スポーツ医学 4健康スポーツ医学

## コーチング学専攻 (3年制博士課程)

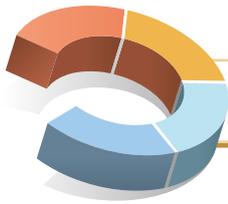
高度職業人レベルの指導者を指導できる、コーチングに関する確かな実務能力と高度の研究能力を兼ね備えた実務型博士の養成を目指しています。コーチング学に特化した世界初の博士課程として、各種競技団体やスポーツ組織において先導的役割を果たすリーダーとして、また、体育系大学等においてコーチング学に関する高度の教育及び研究指導を担当する者として活躍することが期待されます。

●研究領域 … 1一般コーチング学領域(コーチング論、トレーニング学、スポーツ運動学) 2個別コーチング学領域(コーチング学I(個人)、コーチング学II(球技)、コーチング学III(武道))

## スポーツ健康システム・マネジメント専攻 (修士課程)

主にスポーツ推進や健康づくりの各施策分野における現職者・社会人を対象に、スポーツと健康に関する社会・文化的資源の整備とそれらを最も有効に活用するシステムを開発し、自在に政策立案やマネジメントを展開していける高度な専門家を養成します。その目的は、養成されたこれら専門家集団が我が国のスポーツ・健康のより一層の発展に寄与することにあります。

●コース … 1スポーツプロモーション…スポーツプロモーション領域、スポーツマネジメント領域 2ヘルスプロモーション…ヘルスプロモーション領域、ストレスマネジメント領域



# 入学者選抜

## 選抜方法

## 選抜内容

### AC(アドミッションセンター)入試

定員8 / 240名

本学の教育目標である「国際化」、「未来志向」、「問題解決型人材の養成」に沿った人材である事に加え体育やスポーツに関する自分の実績や可能性を自ら推薦する、いわゆる自己推薦入学制度です。書類による第一次選考、また第一次選考合格者に対して第二次選考を実施し総合的に判断して最終合格者を決定します。

一次選考  
二次選考

書類審査 … 入学志願票、志願理由書、高等学校調査書、自己推薦書、運動特技に関する調査書  
個別面接・口述試験

### 国際バカロレア特別入試

定員若干名 / 240名

国際バカロレア資格を取得した方を対象として、主体的に学ぶための知識や思考力、明確な目標を持って学ぶ意欲、また、語学力を含めたコミュニケーション能力などを重視して行う入試制度です。書類による第一次選考、また第一次選考合格者に対して第二次選考を実施し総合的に判断して最終合格者を決定します。

一次選考 書類審査…志願票、エントリーシート、成績証明書、運動特技に関する調査書  
二次選考 個別面接・口述試験

### 推薦入試

定員84 / 240名

高等学校長の推薦に基づき、大学入試センター試験および個別学力検査等を免除して、書類審査、小論文、個別面接及び実技検査により合格者を決定します。各高等学校から体育専門学群に推薦し得る人数は4名が限度となっています。なお、海外からの受験生に対しては、帰国生徒特別入試制度を設けています。

選 考

1小論文  
2実技検査 … 事前に受験生の得意とする1種目を選択。  
体操競技、ダンス、陸上競技、水泳、ハンドボール、バレーボール、バスケットボール、サッカー、ラグビー、硬式野球、テニス(硬式)、卓球、バドミントン、柔道、剣道、弓道  
3面接  
4精密健診(必要に応じて該当者に対して精密検査を行う)  
5書類審査

### 個別学力検査等 - 前期日程

定員148 / 240名

平成27年度個別学力検査は前期日程のみ行われます。まず、大学入試センター試験の結果に基づいて、定員の約3倍相当の人数を第1段階合格者とします。さらに、この第1段階合格者に対し個別学力検査等を課して、その結果(700点)と、大学入試センター試験の結果(700点)を合計し、総合的に判断して最終合格者を決定します。

センター試験

計700点

- 1国語 200
- 2地理歴史・公民…世A、世B、日A、日B、地理A、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1科目 100
- 3数学…数Ⅰ、数Ⅰ・数A、数Ⅱ、数Ⅱ・数B、工、簿、情報から1科目 100
- 4理科…理総A、理総B、物Ⅰ、化Ⅰ、生Ⅰ、地学Ⅰから1科目 100
- 5外国語…英(リスニングテストを含む)、独、仏、中、韓から1科目 200

個別学力検査等

計700点

- 1実技検査…下記の中から、事前に志願者が最も得意とする1種目と、その次に得意な種目1種目、合計2種目(600)を選択。同じ種目を2度選択することはできません。  
体操、器械運動、ダンス、陸上競技、水泳、野外運動、ハンドボール、バレーボール、バスケットボール、サッカー、ラグビー、野球・ソフトボール、テニス、卓球、バドミントン、柔道、剣道、弓道
- 2保健体育理論に関する論述試験 100
- 3精密健診 必要に応じて該当者に対して精密検査を行う

# 体育専門学群卒業研究題目一覧

平成25年度

分野(領域)	論文題目
体育学	日本の体育・スポーツにおける(武士道)―多様性及び特異性―
	3週間のテニスラケットの振動止め不使用訓練がストローク技能に与える影響
	大学運動部に寮生活が与える影響に関する研究～集団凝集性とモラルの視点から～
健康体力学	スポーツ基本法の立法過程に関する研究
	水温の違いが水中安静及び水中での漸増負荷運動時の呼吸循環及び体温調節応答に及ぼす影響
	ヒト運動強度のACSM指標に基づくラットの超低強度運動モデルの確立小動物用呼気ガスチャンバーを用いて
	卵巣摘出ラットにおける皮質骨のリン酸カルシウム結晶分子構造分析
運動学	若年男性における一過性の有酸素性運動および足湯が中心循環特性に及ぼす影響
	地域在住高齢者のための体力テストを用いた軽度認知障害スクリーニング尺度の開発～2年間の追跡データより～
	幼児を対象としたリバウンドジャンプ能力を向上させるトレーニングの効果
	バサロキックにおける動作・筋活動解析
	野球選手における足圧分布と競技力の関係について～ポジションおよび走能力に着目して～
ダンスにおけるリズムカルな動きに関する研究～筋肉の緊張・弛緩リズムに着目して～	
ハンドボール競技における両ウイングポジションでの1対1の突破プレーに関する研究	
カヌースプリント競技における心理的競技能力に関する研究	

平成24年度

分野(領域)	論文題目
体育学	近年における競泳の競技規則の改正に関する研究
	中学校2年生のベースボール型の体育授業における打撃のゲームパフォーマンスの検討
	特別支援教育制度における体育授業の在り方―通常校に在籍した聴覚障害生徒に着目して―
健康体力学	ラグビーのゴールキックにおける軸足倒し込み訓練
	高強度インターバルトレーニングの新たな効果:運動モデルの確立と脳へのアプローチ
	成長期雄ラットにおけるコラーゲン摂取が運動による内臓脂肪減少効果および脂質代謝に及ぼす影響
	剣道の攻撃場面における反応特性と熟練度関係
バドミントン競技選手における睡眠の質が競技パフォーマンスに与える影響	



運 動 学	「パスを受ける」ための戦術的知識とパフォーマンスの関係性の考察
	陸上競技男子400m走のレースパターンと体力特性の関係
	自由形泳中における呼吸制限による呼吸法の変化
	女子ハンドボール競技における右利きバックコートプレイヤーのシュートプレーの特徴
	野球のバントにおけるシャッターゴーグルを用いたトレーニングの有効性について
照明の違いがダンサーの心理と身体感覚に及ぼす影響	

平成23年度

分野(領域)	論 文 題 目
体 育 学	投動作の習得を目指した体育授業における投運動技能と意識の変容 —中学1年生を対象として—
	山形県に伝わる騎馬打毬に関する研究
	ソフトテニスの試合におけるパフォーマンス向上のための自律訓練法の効果
	近世初期における剣術の間に関する研究
	Jクラブのスタジアム及び練習場の所有・管理方式に関する研究
健康体力学	学校運動部OB会の社会的役割に関する研究 —市立浦和高校サッカー部OB会を事例として—
	—過性中強度運動がⅡ型糖尿病動物の海馬内グリコゲン動態に及ぼす影響 —OLETFラットを用いた検討—
	円盤投動作技能の達成度評価
	大学女子アスリートにおける身体特性・栄養素等摂取状況・月経状態・運動特性が骨密度に及ぼす影響
	大学ラグビー選手の傷害特性 —ルール改正(Experimental Law Variations)の影響—
運 動 学	上肢の巧緻性における年齢とスポーツ経験の影響
	個人メドレーにおける背泳ぎから平泳ぎへのターン動作分析およびターンの違いが平泳ぎの生理応答に及ぼす影響
	山岳遭難事故におけるヘリコプター救助の現状と課題
	やり投げの技術習得過程における運動学的考察 —身体知の構成を目指して—
	大学競技スポーツにおけるリーダーシップに関する研究



# 平成26年度 卒業研究領域別指導教員名一覧

領域名	領域代表教員	所属指導教員
<b>体育・スポーツ学</b>		
体育・スポーツ哲学	深澤 浩洋	
体育史・スポーツ人類学	真田 久	山口 拓 李 燦雨
スポーツ社会学	松村 和則	菊 幸一 清水 諭
武道学	藤堂 良明	酒井 利信 大石 純子
体育・スポーツ経営学	柳沢 和雄	清水 紀宏
スポーツ政策学	齋藤 健司	成瀬 和弥
スポーツ産業学	仲澤 眞	嵯峨 寿 高橋 義雄
体育科教育学	岡出 美則	長谷川悦示 三木ひろみ 宮崎 明世
アダプテッド体育・スポーツ学	齊藤まゆみ	澤江 幸則
体育心理学	中込 四郎	坂入 洋右 國部 雅大
<b>健康体力学</b>		
健康教育学	野津 有司	久野 譜也 武田 文 水上 勝義 橋本佐由理 片岡 千恵
環境保健学	田神 一美	本田 靖
運動生理学	西平 賀昭	西保 岳 武政 徹
運動生化学	征矢 英昭	大森 肇
運動栄養学	徳山 薫平	麻見 直美
スポーツバイオメカニクス	藤井 範久	小池 関也
応用解剖学	足立 和隆	
体力学	木塚 朝博	鍋倉 賢治 榎本 靖士
健康増進学	田中喜代次	大藏 倫博
体育測定評価学	西嶋 尚彦	
内科系スポーツ医学	前田 清司	渡部 厚一 柴田 愛
外科系スポーツ医学	宮川 俊平	白木 仁 向井 直樹 竹村 雅裕 福田 崇
<b>コーチング学</b>		
コーチング原論・トレーニング学	凶子 浩二	木内 敦詞 松元 剛 (河合 季信) 谷川 聡
スポーツ運動学	佐野 淳	中村 剛
体操コーチング論	長谷川聖修	本谷 聡
体操競技コーチング論	渡辺 良夫	金谷麻理子 斎藤 卓
陸上競技コーチング論	大山 圭悟	尾縣 貢 木越 清信
水泳競技コーチング論	椿本 昇三	高木 英樹 本間三和子 仙石 泰雄
バレーボールコーチング論	中西 康己	秋山 央
バスケットボールコーチング論	内山 治樹	大高 敏弘 吉田 健司
ハンドボールコーチング論	會田 宏	藤本 元 山田 永子
サッカーコーチング論	浅井 武	中山 雅雄 小井土正亮
ラグビーコーチング論	古川 拓生	中川 昭 嶋崎 達也
ラケット・バットスポーツコーチング論	川村 卓	山田 幸雄 安藤真太郎 吹田 真士 奈良 隆章 三橋 大輔
柔道コーチング論	岡田 弘隆	小俣 幸嗣 増地 克之 山口 香
剣道コーチング論	香田 郡秀	鍋山 隆弘 有田 祐二
弓道コーチング論	森 俊男	
野外運動論	井村 仁	坂本 昭裕 渡邊 仁
舞踊論	村田 芳子	寺山 由美 平山 素子

教職担当:三田部 勇 外国語教育担当:ネメッシュ・ローランド

## 平成25年度卒業生の進路の内訳と主な就職先

進学 51名(21%) 筑波大学大学院修士課程 他

企業 111名(46%) 富士通システムズ・イースト、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、パナソニック、九州電力、電通、東京海上日動あんしん生命保険、JTB関東、クイック、大和証券、愛媛朝日テレビ、トヨタホーム茨城、豊田自動織機、大阪ガス、日立製作所、ライオン、静岡銀行、東京エレクトロン九州、TOTO、豊通物流、日本教育協会、三菱東京UFJ銀行、博報堂DYメディアパートナーズ、上田ケーブルビジョン、アチーブメント、カープスジャパン、アシックス、アステラス製薬、福井県民球団、千葉銀行、北海道銀行、ゴディバジャパン、アイシン・エイ・ダブリュ、ソフトバンク、リコージャパン、トーカイ、ヴィクトリア、福島放送、ジー・プラン、東京ガス、住友商事、岐阜フットボールクラブ、セントラルスポーツ、NPO法人スマイルクラブ、三井住友信託銀行、JR東日本、千葉食品、みずほ銀行、リクルートライフスタイル、兼松エレクトロニクス、新日鐵住金、東邦銀行、一誠商事、ファクトリージャングルグループ、西日本シティ銀行、横河マニュファクチャリング、東芝、セガ、全日本空輸、ボーラファルマ、セレスポ、旭化成ファーマ、常陽銀行、シャープ、ウィルワン、エヌ・ティ・ティ・ドコモ、JALスカイ、クアールトスインテック、楽天、シイエヌエス、カーチスホールディングス、鹿島アントラーズ、ソニーセミコンダクタ、ヤマハフットボールクラブ、十六銀行みずほフィナンシャルグループ、伊藤超短波、京葉ガス、日本新薬、ハンガリー柔道連盟、トヨタ車体、乗馬クラブアクレイン、スターツコーポレーション、川崎フロンターレ、JTB首都圏、アサヒフードアンドヘルスケア、ニトリ、宇都宮村上塾、日本紙パルプ商事、学校法人了徳寺学園、ハイティ日高、日本たばこ産業、豊田合成、柏レイソルアライアンスアカデミー野田、北海道旅客鉄道、トヨタ紡織九州、三菱重工業、リクルート住まいカンパニー、オープンハウスグループ、シーフォース 他

教員 40名(16%) 公立高校・中学校、私立高校・中学校 他

公務員 10名(4%) 今治市役所、会津若松地方広域市町村圏整備組合消防本部、石川県警察本部、さいたま市役所、大阪府警察本部、大洗町役場、黒部市役所、警視庁、鳥取県警察本部、鹿児島県警察本部

## 平成24年度卒業生の進路の内訳と主な就職先

進学 67名(26%) 筑波大学大学院修士課程 他

企業 103名(40%) NTTコミュニケーションズ、KDDI、アイシン・ワーナー、オムロン リレーアンドデバイス、キャノンシステムアンドサポート、キリンビバレッジ、グローバルシステムズ、ジャパンマリンユナイテッド、セコム、センコー、ソニー、タカラスタンダード、つくばフットボールクラブ、トヨタ自動車、メディカルフィットネスクラブフォレスト、ヨネックス、リスト、学校法人了徳寺学園、ASPE(千葉ジェッツ)、Beautiful Life、JR東日本リテールネット、JTB関東、PFU、アールシーコア、アシックス、イズミ、エスパルス、NTTドコモ、クイック、クボタ、ジーユー、ジェイプロジェクト、テイクアンドギヴ・ニーズ、テクノスジャパン、デンソー、ドウシヤ、モンベル、宮城テレビ放送、戸上電機製作所、三菱東京UFJ銀行、静岡銀行、大塚商会、中京銀行、長谷工エレクトロニクス、東京ドームホテル、栃木銀行、北海道銀行、北海道博報堂、麻生、明光ネットワークジャパン、明電舎、岩手日報社、九州電力、兼松コミュニケーションズ、公益財団法人日本体育協会、公益財団法人岐阜県体育協会、財団法人長岡市体育協会、三井不動産住宅サービス、三菱UFJ信託銀行、三菱地所、山崎製パン、住商スチール、住友スリーエム、住友商事、新日鐵住金、西部ガス、雪印メグミルク、川崎フロンターレ、双日、大和ハウス工業、東レ、東京セキスイハイム、東京海上日動あんしん生命保険、東芝メディカルシステムズ、JR東日本、日本ハウズイング、日本水産、日本製粉、日立公共システムエンジニアリング、豊田合成、豊島、北海道国際航空、野村證券、サニーサイドアップ、JAぎふ、NPO法人阿見アスリートクラブ、トリッキーバンダース 他

教員 30名(12%) 公立高校・中学校、私立高校・中学校 他

公務員 11名(4%) 北海道庁、埼玉県警察本部、大阪市消防局、鹿児島市役所、秋田県庁、警視庁、長崎県警察本部、神戸市消防局、新潟市役所、大阪狭山市役所、長崎県庁 他

## 平成19年度～平成23年度主な就職先一覧

### 【企業・団体】

アルビレックス新潟、ヴァンフォーレ甲府、FC岐阜、清水エスパルス、JFAアカデミー福島、ジュビロ磐田、水戸ホーリーホック、セレッソ大阪、千葉ロッテマリーンズ、ベガルタ仙台、東京フットボールクラブ、日本サッカー協会、リンクススポーツエンターテインメント、日本バレーボール協会、秋田県体育協会、横浜市体育協会、アシックス、ミズノ、アディダスジャパン、コナミ、セントラルスポーツ、ミキハウス、葵プロモーション、劇団四季、劇団民藝、NHK、関西テレビ、静岡朝日テレビ、テレビ朝日、富山テレビ、北海道テレビ、読売テレビ、朝日新聞社、毎日新聞、北海道新聞、北日本新聞社、産経新聞社、日本経済新聞社、日本経済広告社、時事通信社、大日本印刷、電通、博報堂、アサツーディ・ケイ、ベネッセコーポレーション、NTTドコモNTT西日本、KDDI、ソフトバンク、ヤフージャパン、エアーニッポン、JALエクスプレス、全日本空輸、日本航空インターナショナル、JR東日本、JR西日本、日本通運、JTB、HIS、大和証券、野村證券、愛媛銀行、伊予銀行、十六銀行、常陽銀行、仙台銀行、八十二銀行、三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行、岡崎信用金庫、みずほフィナンシャルグループ、三井住友信託銀行、横浜銀行、秋田銀行、岩手銀行、山形銀行、山口銀行、東京金融先物取引所、住友生命、第一生命、大同生命、日本生命、三井住友海上火災、明治安田生命、あいおい損害保険伊藤忠商事、丸紅、豊田通商、双日、豊通マシナリー、住金物産、三井不動産、日本総合地所、トヨタホーム、ケン・コーポレーション、NEC、大崎電気工業、オムロン、河合楽器、キャノン、クボタ、コマツ、三洋電機、大同特殊鋼、TDK、デンソー、東芝、東宝、東レ、豊田合成、トヨタ自動車、任天堂、パナソニック、日立電子、フジタ、日本IBM、富士通、パナソニック、三菱重工業、三菱電機、日立テクノロジーズ、ヤマハ発動機、理想科学工業、パナソニック電工、三菱電機ビジネスシステム、曙ブレーキ工業、日立建機、日産自動車、清水建設、積水ハウス、丹青社、大和ハウス工業、ジョンソン＆ジョンソン、新日本石油、住友化学、三協立山アルミ、SEGA、セコム、セントラル警備保障、総合警備保障、アルペン、ゼビオ、しまむら、キリンビバレッジ、エムサービス、協和発酵キリン、日清食品、日清フーズ、ヤクルト、ココロラウエスト、スターバックスコーヒージャパン、ロッテ、明治製菓、テーブルマーク、伊藤忠食品、味の素、阪急百貨店、三越伊勢丹、資生堂、大塚製薬、久光製薬、ユニクロ、リクルート、ワコール、ミキハウス、TOKAIホールディングス、広島ガス、東京ガス、大阪ガス、中部電力、マイナビ、エディオン、日本赤十字社、他

### 【官公庁等】

自衛隊、警視庁、香川県警、群馬県警、広島県警、北海道警、岐阜県スポーツ科学トレーニングセンター、大阪市消防局、上田市役所、宇都宮市役所、つくば市役所、平塚市役所、三島市役所、他

### 【教員】

愛知県公立高校、秋田県公立高校、石川県公立小学校、石川県養護学校、茨城県公立高校、茨城県公立中学、愛媛県公立高校、大阪府公立高校、岡山県公立高校、神奈川県公立高校、川崎市公立中学、北九州市公立高校、岐阜県公立高校、京都府公立高校、京都府公立中学、熊本県公立高校、群馬県公立高校、埼玉県公立中学、札幌市公立高校、札幌市養護学校、滋賀県公立高校、千葉県公立高校、千葉県公立中学、東京都公立高校、東京都養護学校、鳥取県公立高校、富山県公立高校、長崎県公立高校、名古屋市公立中学、奈良県公立中学、新潟県公立高校、兵庫県公立高校、福井県公立高校、福岡県公立高校、三重県公立中学、宮崎県養護学校、山形県公立高校、山口県公立高校、佐藤栄学園、昌平高校、塚原青雲高校、東亜学園高校、同志社国際中・高校、三輪学園中・高校、ラサール高校、了徳寺学園(職員)、和洋国府台女子中・高校、江戸川学園取手中・高校、八千代松蔭中・高校他

## Q 一般教養的な学習はどのようにできるのですか？

本学の授業は、教養課程と専門課程という段階的な区分を設けずに行われています。その代わりに、一般教育的な科目と専門教育的な科目を有機的に統合し、4年間(医学類は6年間)を通じての履修によって大学教育本来の目的が達成されるように計画されています。

他大学の一般教養科目に相当するのは、本学では総合科目になります。平成26年度は学期完結型の科目を中心に、多分野に渡り約180科目が開設されており、8単位が必修となっています。

## Q 学群で開設している授業の詳細は？

全ての開設科目は、毎年作成される「開設授業科目一覧」という冊子にまとめられています。そこではそれぞれの授業の概要等について記載されています。また、更に詳しい内容については授業計画、内容等を記載したシラバスを毎年公表しています。これらはインターネットで閲覧できます。

## Q 教職課程や教育実習について詳しく知りたいのですが？

本学では教員免許状取得の所要資格を得るための課程として教職課程を設けています。この課程は卒業に必要な授業科目と並行して履修することになります。本学の教育実習は、附属学校または茨城県内の協力校等で実施することが原則ですが、事情によっては母校で実施することも可能です。

## Q 取得できる免許や資格はどのようなものですか？

本学群で取得できる資格は、まず中学及び高校の教員免許(保健体育)です。25年度は約140名が教員免許を取得することができました。同時に特別支援(2領域・5領域)の取得も可能です。また、(財)日本体育協会公認のスポーツリーダーの資格が取れると同時に、アスレチックトレーナーや社会体育指導者の資格取得に必要な、養成講習会の受講免除等が適用されます。

その他には、教育関係の単位を多少加えて取ることにより、社会教育主事となるための基礎資格などを取得できます。

## Q 運動部活動は授業に支障を来さないでしょうか？

運動部活動は基本的には課外活動ですが、体育専門学群の場合には授業と相互に連動して成果を上げられるように配慮されていますので、両方とも積極的に取り組むことができます。





### 留学制度はありますか？

筑波大学では、60カ国261機関(H26.5.1現在)と学生交流に関する協定を締結しています。この協定に基づき、本学から相手大学等に学生を派遣するものが、交換留学です。協定校への交換留学には、次のようなメリットがあります。1 (財)日本国際教育支援協会が実施する奨学金制度に申請できます。2 授業料相互不徴収に関する協定を締結している指定校にあつては、相手大学での授業料が免除されます。



### 学生宿舎の生活はどんな感じですか？ また下宿案内はありますか？

学生宿舎の収容定員は、単身用(個室)として4,000人分程度です。新入生は優先的に入居できるよう配慮され、ほぼ全員が入居可能です。

個室の間取りは棟によって様々ですが、トイレ、補食室、洗濯室はフロアで共用になっています。春日地区を除く居住棟のすぐそばに共用棟があり、食料品雑貨の売店、食堂、理容、浴場等が配置されています。学生宿舎の寄宿料は、単身用(個室)で月額6,700円～、その他に共益費などが必要です。また、春日地区を除く各室には電話があり、学内なら通話は無料ですが、学外との通話には別途加入契約が必要になります。

大学の周辺には数多くのアパートがあります。学生部学生生活課(1D棟ステューデントプラザ)の窓口でも物件の資料を閲覧できるようになっています。



### サークルはたくさんあるのですか？

本学には多くのサークルがあり、種目もレベルも多岐にわたっていますので、各自の希望にあったサークルを選択することが可能です。体育系以外にも、文化系や芸術系のサークルが多数あります。



### 主な就職先、職種について教えてください。

学群はこれまでの伝統を受け継ぎ、入学時には大半の学生が卒業後の進路として教職を希望しています。最近では児童生徒の減少に伴い、教職員の採用を手控える自治体が多くなり、本学群卒業生の教職員への就職は年々減少する傾向にありました。しかし、今後は徐々に教員の需要が増加することが予想されます。

またトレーナーを希望する人が多いのですが、トレーナーという職種は現在我が国では必ずしも確立されておらず、職業として従事できる可能性はあまりありません。これまでにトレーナーになった人は、アスレチックトレーナーの資格を取ることに加えて、卒業後に鍼灸師や柔道整復師などの資格を取得しています。

一方、民間企業においては体育学群学生の人気は高く、かなり広範な職種に就職し活躍している人が増加しています。そのための就職活動は3年生の後半から始まりますが、大学が提供しているサポートシステムを積極的に活用することが成功の鍵となります。



# 体育総合実験棟 SPEC

スポーツの知 ―― それはアスリートにとって必要なものです。心・技・体の調和をはかり、アスリートの競技力向上や、スポーツパーソンのスポーツライフをサポートするための施設、それが体育総合実験棟SPEC (Sport Performance and Clinic Lab.) です。

スポーツを科学的にとらえ、最新の設備と情報を用いて精度の高い実践的な研究を進めるとともに、アスリートに対して積極的に施設を開放することによって研究と現場を結びつける重要な役割を果たします。

また、SPECは、1競技力向上への貢献(アスリートへのサポート)、2地方公共団体・他研究機関との連携、3スポーツ医科学の知と技を持った実践家(トレーナー、コーチ、スポーツカウンセラー等)の養成、4スポーツ関連情報の発信(公開講座、セミナー等)という4つの理念のもとに活動しています。独立した4つの理念がSPECを通じて融合し、アスリートを総合的にサポートする理想的な環境を実現します。

SPECは国内最高水準の研究と実践の場として、常にスポーツ医科学分野のパイオニア的存在でありたいと思っています。アスリートのサポートを通じて、スポーツ医科学の知と技を持った人材の育成にも力をいれ、ハード面のみならず、ソフト面での充実を図ります。

人はスポーツを通じて喜びや感動を得ることができます。すばらしいスポーツ文化の一端を担えるよう、SPECは日々努力していきます。



メンタルトレーニング



## 1階 多目的実験ゾーン

多目的実験ゾーンと呼ばれるこのフロアは、各種のスポーツ動作を主としてバイオメカニクス的手法により分析し、一流選手や熟練者の技術と比較したり、アスリートの技術や指導法などに関するアイデアを検証したりするための空間です。

体育館のような多目的実験室では、各種スポーツ動作のバイオメカニクスの分析(VICONによる3次元動作分析、地面反力の測定、高速VTRによる撮影、筋電図測定など)を行うことができます。動作解析室では撮影したVTRを分析したり、より高度な計算を行うことができます。

また、このゾーンでは、バイオメカニクスやコーチ学に関する知と技を持ったスポーツコーチの育成を行います。1階入口ホールには、野外活動実習用のクライミングウォールもあります。

## 2階 リハビリ・トレーニング実験ゾーン

リハビリ・トレーニング実験ゾーンと呼ばれるこのフロアは、様々なスポーツ傷害のアスレティックリハビリテーションや競技力向上を目的としたトレーニングを行います。

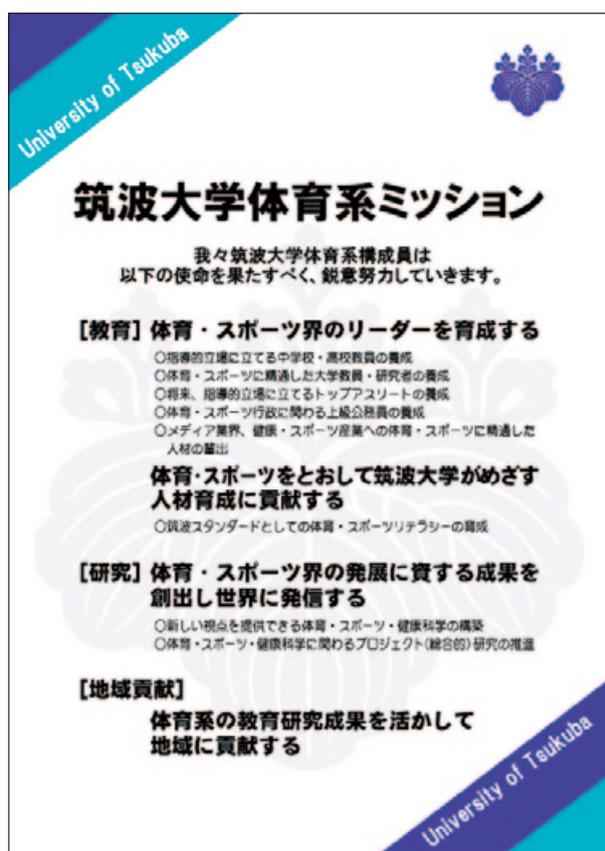
早期で安全な競技復帰はアスリートにとって重要な課題です。ドクターとアスレティックトレーナーの連携のもと、アスリートの円滑な競技復帰をサポートします。

また、このゾーンでは、スポーツ医学や体力学に関する知と技を持ち、スポーツのメディカルサイドで必要とされるアスレティックトレーナーの育成を行います。

## 3階 体育系共通ゾーン

体育系共通ゾーンと呼ばれるこのフロアには、アスリートの心の問題や栄養の問題に対応するための相談室などがあります。前者では、箱庭療法、風景構成法などの表現療法やメンタルトレーニングなどを体験することができます。

また、このゾーンでは、心理学や栄養学に関する知と技を持ったカウンセラーの育成を行います。フロアには、体育、スポーツ健康科学に関する様々な研究を推進するためのプロジェクト研究室や、セミナールームもあります。



University of Tsukuba

### 筑波大学体育系ミッション

我々筑波大学体育系構成員は以下の使命を果たすべく、鋭意努力していきます。

**【教育】 体育・スポーツ界のリーダーを育成する**

- 指導的立場に立てる中学校・高校教員の養成
- 体育・スポーツに精通した大学教員・研究者の養成
- 将来、指導的立場に立てるトップアスリートの養成
- 体育・スポーツ行政に関わる上級公務員の養成
- メディア業界、健康・スポーツ産業への体育・スポーツに精通した人材の輩出

**体育・スポーツをとおして筑波大学がめざす人材育成に貢献する**

- 筑波スタンダードとしての体育・スポーツリテラシーの育成

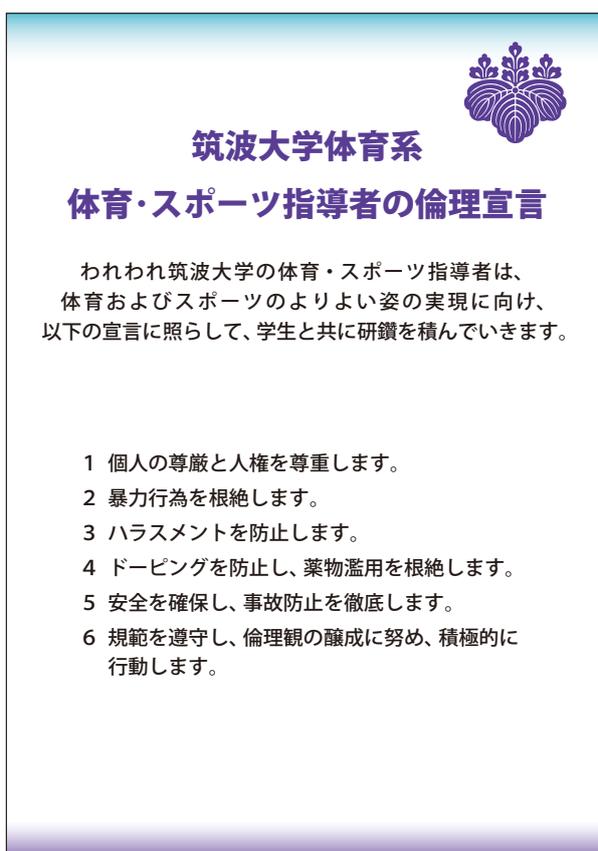
**【研究】 体育・スポーツ界の発展に資する成果を創出し世界に発信する**

- 新しい視点を提供できる体育・スポーツ・健康科学の構築
- 体育・スポーツ・健康科学に関わるプロジェクト(総合的)研究の推進

**【地域貢献】**

**体育系の教育研究成果を活かして地域に貢献する**

University of Tsukuba



筑波大学体育系

### 体育・スポーツ指導者の倫理宣言

われわれ筑波大学の体育・スポーツ指導者は、体育およびスポーツのよりよい姿の実現に向け、以下の宣言に照らして、学生と共に研鑽を積んでいきます。

- 1 個人の尊厳と人権を尊重します。
- 2 暴力行為を根絶します。
- 3 ハラスメントを防止します。
- 4 ドーピングを防止し、薬物濫用を根絶します。
- 5 安全を確保し、事故防止を徹底します。
- 6 規範を遵守し、倫理観の醸成に努め、積極的に行動します。

